

令和7年度全国学力・学習状況調査の傾向と対策

加古川市立別府中学校

実施日時：4月17日

対 象：中学3年生

■ 国語・数学・理科における本校生徒の傾向

国語・数学・理科ともに、基礎的な知識・理解（選択問題や短答式問題）は全国平均と同程度か、やや上回っている。一方で、自分の考えや理由を文章で説明する記述問題の正答率が全国平均を下回っており、自分の意見をまとめて相手に伝える力（思考力・表現力）に課題がみられる。

■ 生徒質問用紙にみる本校生徒の傾向

〈子どもたちの良い面〉

- 友達との関係や学校生活に高い満足感があり、楽しく通えている生徒が多い。
- 困っている人を助ける気持ちや、いじめを許さない意識が全国平均より高く、思いやりの心や規範意識が育っている
- 先生に相談できると答えた生徒も全国平均より多く、安心して学校生活を送れている。

〈今後の課題〉

- 学習を「得意」と感じる生徒が全国平均より少なく、特に「自分の考えを深め、表現する力」の育成が求められる。
- 話し合い活動、ICT デバイス（クロムブック等）の活用が全国平均より少なく、主体的に学ぶ機会をさらに増やす必要がある。
- 「朝食を食べない」「就寝時間が不規則」と答えた生徒がやや多く、家庭での生活リズムの改善が求められる。

■ 学校の対応方針

1 探究的な学びの充実（思考力・表現力を伸ばす授業づくり）

教科の授業だけでなく、総合的な学習の時間や学級活動・行事への取組などで、課題設定や話し合い活動・発表活動を増やし、学校生活の様々な場面で「自ら考え、根拠を示して伝える活動」を重視する。

2 ICTの活用推進

授業デザインを工夫し、ICT デバイス（クロムブック等）を活用する場面をさらに取り入れる。

